

# 但馬管内の景気動向調査

2019年10～12月期実績・2020年1～3月期見通し

【特別調査 2020年（令和2年）の経営見通しについて】

## 調査の概要

1. 回答数：362（前回：438）
  2. 調査時点 2019年12月上旬
  3. 当金庫 営業店の調査員による、共通の調査表に基づく聴取り調査
  4. 分析方法：ディフュージョン・インデックス（D. I.）  
景気の各項目事項について、「増加」（良い）－「減少」（悪い）の構成比の差＝判断D. I.に基づく分析
- ※全国とは、信用金庫の中央機関である信金中央金庫が全国各地の信用金庫から調査した調査の結果を示している。



但馬信用金庫

# 1. 概況（回答数362 前回438）

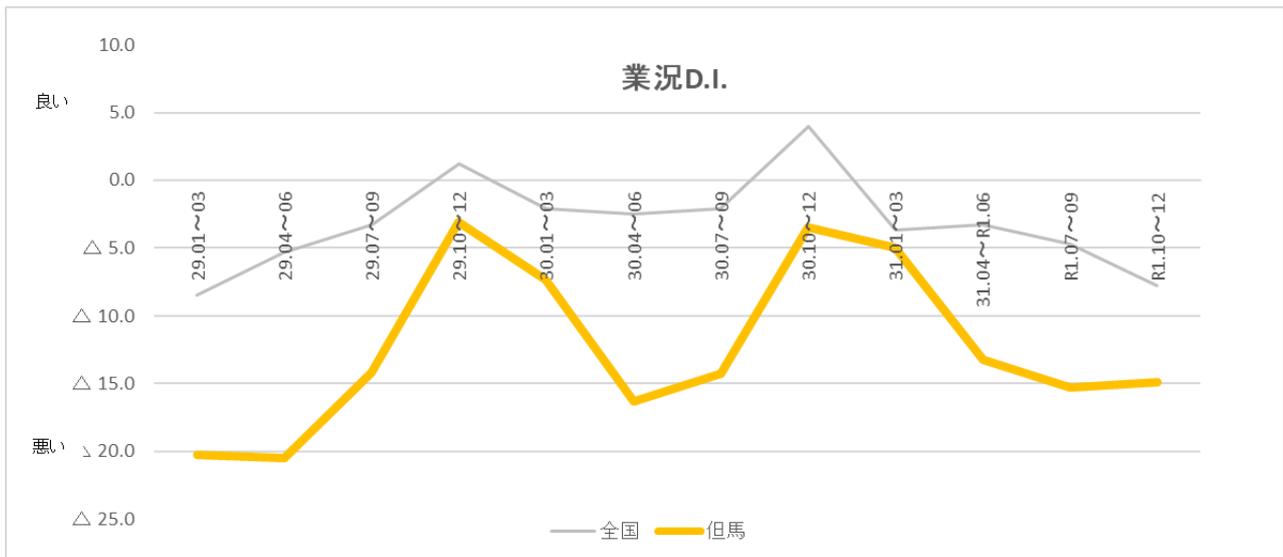
今回（2019年10～12期）の業況D.I.は△14.9。前四半期比0.4ポイント増加と大きな変動はなかった。しかしながら、前回調査時における見通し（△9.8）を下回る結果であった。中でも人手過不足D.I.は、前四半期比△7.3ポイントの△34.8となっており、人手不足が大きな課題となっていることが伺える。

次回（2020年1～3月期）の業況D.I.予想は△14.6と厳しい見通しが続いており、人手過不足D.I.も△32.7とあまり改善が見込めないと予想となっている。

全体	2019年10～12月期実績	前四半期比	2020年1～3月期予想
業況D. I.	△ 14.9	0.4	△ 14.6
前年同期比売上額D. I.	△ 7.8	0.0	-
前年同期比収益D. I.	△ 14.7	△ 3.5	-
売上額D. I.	0.3	3.9	△ 7.2
収益D. I.	△ 3.0	5.7	△ 9.7
資金繰りD. I.	△ 18.5	△ 0.5	△ 18.6
借入金の難易度D. I.	△ 13.2	△ 4.7	-
前期比残業時間D. I.	0.0	3.9	△ 2.2
人手過不足D. I.	△ 34.8	△ 7.3	△ 32.7

業種名 \ 時期	2019年 7月～9月	2019年 10月～12月	2020年 1月～3月(見通し)
総合			
製造業			
建設業			
卸売業			
小売業			
不動産業			
サービス業			

（この天気図は、過去1年の景気指標を総合的に判断して作成したものです。）



好調 ← → 低調

## 2. 製造業（回答数63 前回83）

今回の業況 D.I.は△17.5 であり、前四半期比では△4.2 ポイントとなった。中でも受注残 D.I.は前四半期比で△19.4 と大きく低下している。

人手過不足 D.I.は△30.2 と、前四半期比で僅かに改善したものの、依然大きくマイナスとなっており、人手不足の先が多い状況が伺える。

一方で、設備投資 D.I.は 33.3、来期設備投資 D.I.は 33.3 となっており、設備投資に積極的な姿勢が見え、これは人手不足を補う動きであることも考えられる。

次回も売上額 D.I.や収益 D.I.のマイナスが続き、業況 D.I.は更に悪化する予想となっている。

製造業	2019年10～12月期実績	前四半期比	2020年1～3月期予想
業況D.I.	△ 17.5	△ 4.2	△ 25.4
前年同期比売上額D.I.	△ 19.0	△ 10.5	-
前年同期比収益D.I.	△ 20.6	△ 9.7	-
売上額D.I.	△ 11.1	0.9	△ 12.9
受注残D.I.	△ 20.6	△ 19.4	△ 11.3
収益D.I.	△ 15.9	△ 0.2	△ 16.1
販売価格D.I.	6.3	△ 3.3	△ 1.6
原材料価格D.I.	33.3	4.4	27.4
原材料在庫D.I.	6.3	5.1	1.6
資金繰りD.I.	△ 11.1	2.1	△ 8.1
借入金の難易度D.I.	1.6	△ 0.8	-
前期比残業時間D.I.	△ 12.7	△ 9.0	△ 19.7
人手過不足D.I.	△ 30.2	3.2	△ 27.4
現在の設備D.I.	△ 17.5	△ 0.4	-
設備投資D.I.	33.3	△ 5.2	-
来期設備投資D.I.	33.3	△ 0.4	-

## 3. 建設業（回答数73 前回91）

今回、業況 D.I.が 6.8 となり、唯一プラスとなっている業種である。前四半期比で11.2の上昇となっており、収益 D.I.が 9.1 上昇していることなどが影響していると思われる。

また、前期比残業時間 D.I.は 8.2、人手過不足 D.I.は △40.8となっており、人手不足の中、残業時間が増加していることが伺える。

次回については、業況 D.I.が△9.6 とマイナスに転じる予想となっている。売上額 D.I.・受注残 D.I.・施工高 D.I.・収益 D.I.が軒並みマイナスであり、今後に慎重な見通しであった。

建設業	2019年10～12月期実績	前四半期比	2020年1～3月期予想
業況D.I.	6.8	11.2	△ 9.6
前年同期比売上額D.I.	11.0	13.2	-
前年同期比収益D.I.	△ 5.5	0.1	-
売上額D.I.	△ 1.4	△ 0.3	△ 12.3
受注残D.I.	1.4	2.5	△ 5.5
施工高D.I.	0.0	0.0	△ 12.3
収益D.I.	1.4	9.1	△ 12.3
請負価格D.I.	1.4	2.5	△ 1.4
材料価格D.I.	20.5	△ 3.6	13.7
在庫D.I.	△ 4.1	△ 6.3	0.0
資金繰りD.I.	△ 16.4	△ 4.4	△ 23.3
借入金の難易度D.I.	△ 12.7	△ 8.2	-
前期比残業時間D.I.	8.2	13.7	0.0
人手過不足D.I.	△ 40.8	△ 12.0	△ 38.0
現在の設備D.I.	△ 11.0	△ 2.1	-
設備投資D.I.	26.0	△ 0.3	-
来期設備投資D.I.	26.0	△ 2.5	-

#### 4. 卸売業（回答数40 前回43）

業況 D.I.は△30.0と依然マイナスであるが、前四半期比は4.9と今回は上昇に転じた。売上額 D.I.や販売価格 D.I.が大きく上昇していることなどが要因となっていると思われる。また、設備投資 D.I.は32.5、来期設備投資 D.I.は42.5という結果であった。設備投資を実施したり、実施予定の先が多い傾向であった。

次回の業況 D.I.は今回と同じ△30.0であり、業況は横ばいの見通しである。販売価格 D.I.が17.5となっているにも関わらず、売上額 D.I.が△20.0となっており、販売数の減少を不安視していることが考えられる。

卸売業	2019年10～12月期実績	前四半期比	2020年1～3月期予想
業況D.I.	△ 30.0	4.9	△ 30.0
前年同期比売上額D.I.	△ 30.0	△ 2.1	-
前年同期比収益D.I.	△ 27.5	△ 8.9	-
前年同期比販売価格D.I.	27.5	29.8	-
売上額D.I.	10.0	26.3	△ 20.0
収益D.I.	7.5	26.1	△ 20.0
販売価格D.I.	35.0	39.7	17.5
仕入価格D.I.	25.0	18.0	5.0
在庫D.I.	15.0	10.3	△ 2.5
資金繰りD.I.	△ 27.5	△ 1.9	△ 25.0
借入金の難易度D.I.	△ 17.9	1.6	-
前期比残業時間D.I.	△ 2.5	4.5	△ 7.5
人手過不足D.I.	△ 32.5	△ 11.6	△ 30.0
現在の設備D.I.	△ 10.3	1.4	-
設備投資D.I.	32.5	11.6	-
来期設備投資D.I.	42.5	26.2	-

#### 5. 小売業（回答数50 前回63）

今回の業況 D.I.は△30.0と、前四半期比 12.9ポイント改善したものの、卸売業と並んでマイナスが大きい業種であった。また、次回業況 D.I.については、△36.0と全業種中最も厳しい見通しとなっている。

今回の販売価格 D.I.は16.0、仕入価格 D.I.は30.0と大きく上昇しており、消費税率改正の影響が考えられる。

次回の仕入価格 D.I.は16.0、収益 D.I.は△26.0となっており、仕入価格の上昇が収益に悪影響を与えると予想していることが考えられる。

また、資金繰り D.I.については今回、次回ともマイナスが大きく、厳しい資金繰りが伺える。

小売業	2019年10～12月期実績	前四半期比	2020年1～3月期予想
業況D.I.	△ 30.0	12.9	△ 36.0
前年同期比売上額D.I.	△ 12.0	11.8	-
前年同期比収益D.I.	△ 24.0	1.4	-
前年同期比販売価格D.I.	18.0	14.8	-
売上額D.I.	6.0	18.7	△ 24.0
収益D.I.	△ 8.0	6.3	△ 26.0
販売価格D.I.	16.0	14.4	12.0
仕入価格D.I.	30.0	20.5	16.0
在庫D.I.	4.0	2.4	2.0
資金繰りD.I.	△ 32.0	6.1	△ 34.0
借入金の難易度D.I.	△ 26.0	△ 3.4	-
前期比残業時間D.I.	△ 2.0	4.3	0.0
人手過不足D.I.	△ 22.4	△ 3.1	△ 18.4
現在の設備D.I.	△ 12.0	△ 3.9	-
設備投資D.I.	24.0	5.0	-
来期設備投資D.I.	20.0	△ 0.6	-

## 6. 不動産業（回答数 1 1 前回 1 2）

業況 D.I.は△9.1となり、前四半期比△0.8と大きな変化はなかった。

借入金の難易度 D.I.は、前四半期比 20.0 ポイントマイナスとなる 10.0 であった。金融機関からの借入はやや難しくなったと感じている。

次回、販売価格 D.I.が△18.2 となっている一方で、売上額 D.I.は 18.2 であった。単価が下がるものの、販売される物件数が増加する見通しがあることが考えられる。

不動産業	2019年10～12月期実績		2020年1～3月期予想
		前四半期比	
業況D.I.	△ 9.1	△ 0.8	18.2
前年同期比売上額D.I.	△ 10.0	△ 10.0	-
前年同期比収益D.I.	△ 10.0	6.7	-
売上額D.I.	△ 18.2	△ 9.8	18.2
収益D.I.	△ 18.2	6.8	18.2
販売価格D.I.	0.0	8.3	△ 18.2
仕入価格D.I.	△ 9.1	△ 0.8	△ 9.1
在庫D.I.	△ 9.1	7.6	△ 9.1
資金繰りD.I.	0.0	△ 16.7	△ 9.1
借入金の難易度D.I.	10.0	△ 20.0	-
前期比残業時間D.I.	△ 9.1	△ 9.1	9.1
人手過不足D.I.	△ 18.2	9.1	△ 18.2

## 7. サービス業（回答数 1 2 5 前回 1 4 6）

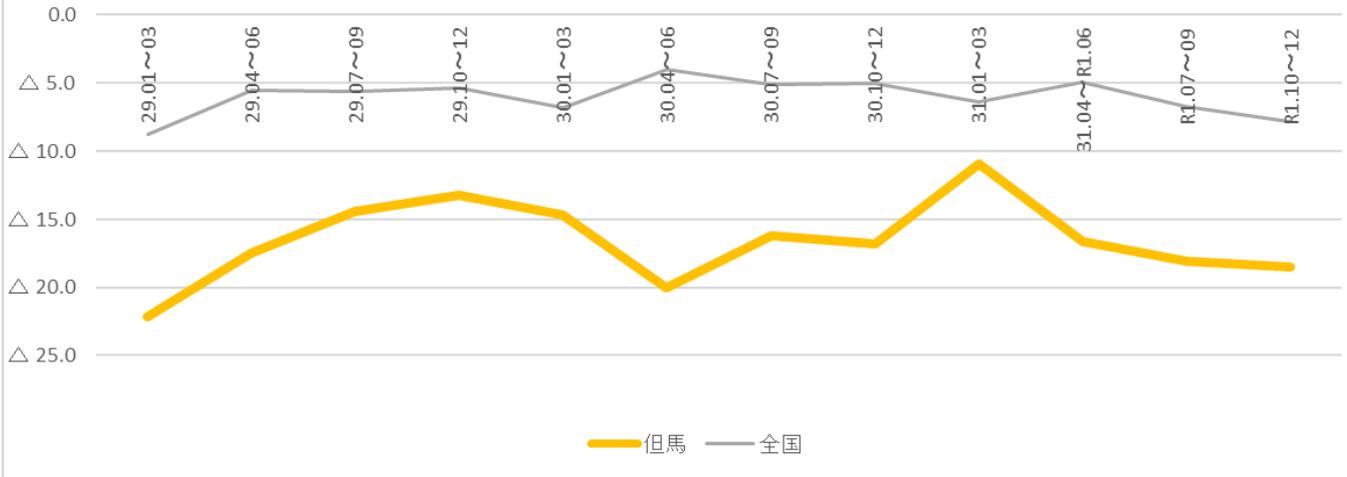
今回、業況 D.I.は△16.0であり、前四半期比△9.8と低下する結果となった。

特に人手過不足 D.I.が△40.8と、人手不足が顕著に表われている。また、次回についても△40.0 が予想されており、人手不足の解消には厳しい見立てである。

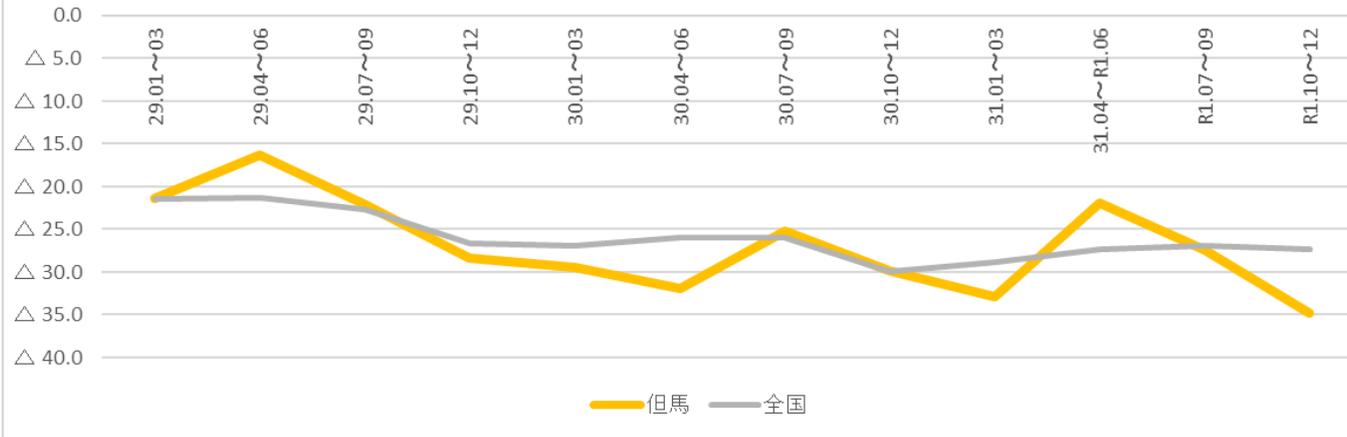
しかしながら、次回の業況 D.I.予想は△1.6と、依然マイナスであるが、業況はやや改善する見通しとなっている。料金価格 D.I.や売上額 D.I.がプラスとなっており、僅かながら好転に繋がると考えられている。

サービス業	2019年10～12月期実績		2020年1～3月期予想
		前四半期比	
業況D.I.	△ 16.0	△ 9.8	△ 1.6
前年同期比売上額D.I.	△ 4.0	△ 5.4	-
前年同期比収益D.I.	△ 9.7	△ 3.5	-
売上額D.I.	3.2	△ 4.3	7.2
収益D.I.	0.8	△ 0.6	2.4
料金価格D.I.	16.0	16.0	6.4
材料価格D.I.	24.8	17.3	16.8
資金繰りD.I.	△ 16.8	△ 0.4	△ 13.6
借入金の難易度D.I.	△ 16.4	△ 5.6	-
前期比残業時間D.I.	4.0	5.4	4.8
人手過不足D.I.	△ 40.8	△ 12.0	△ 40.0
現在の設備D.I.	△ 20.2	7.2	-
設備投資D.I.	29.6	6.3	-
来期設備投資D.I.	28.0	△ 0.8	-

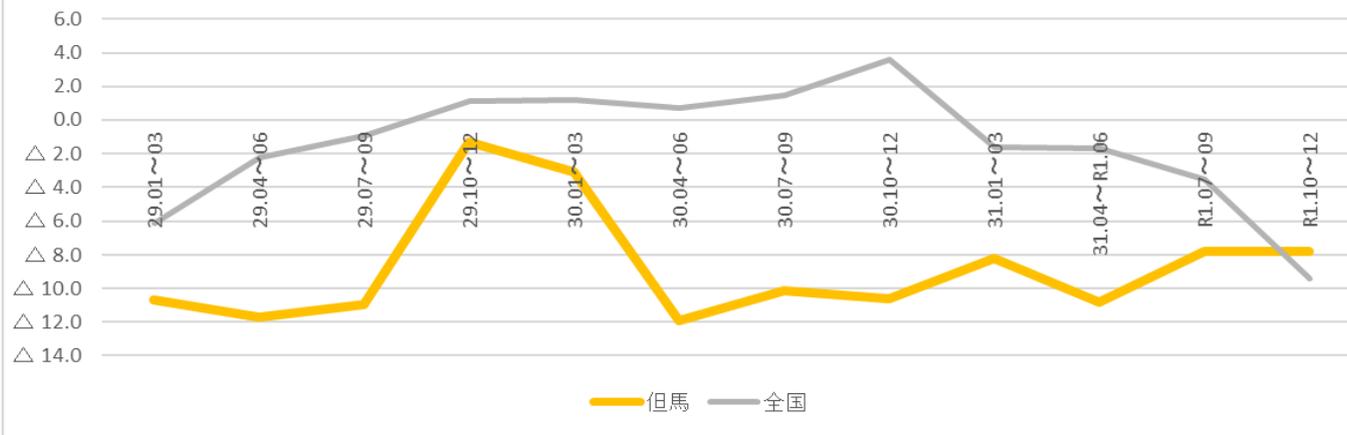
資金繰りD. I.



人手過不足D. I.



前年同期売上額D. I.



## 業種別DI等の推移表

製造業	前年同期に比べて											前期比 残業時間	借入金 の 難易度	現在の 設 備	設備投資 実施割合
	業況	売上額	収益	売上額	受注残	収益	販売価格	原材料価格	原材料在庫	資金繰り	人手				
30.10~12	3.6	0.0	0.0	28.6	16.1	14.3	16.1	35.7	0.0	△ 7.1	25.0	△ 39.3	5.4	△ 23.2	46.4
31.01~03	4.1	8.2	△ 1.4	△ 17.6	△ 2.7	△ 24.3	0.0	27.0	2.7	△ 5.4	5.4	△ 42.5	8.1	△ 20.3	37.8
31.04~R1.06	△ 0.0	△ 7.7	△ 10.3	△ 1.3	△ 2.6	△ 6.4	9.0	23.1	0.0	△ 5.1	△ 6.4	△ 26.9	△ 1.3	△ 15.4	28.2
R1.07~09	△ 13.3	△ 8.5	△ 11.0	△ 12.0	△ 1.2	△ 15.7	9.6	28.9	1.2	△ 13.3	△ 3.7	△ 33.3	2.4	△ 17.1	38.6
R1.10~12	△ 17.5	△ 19.0	△ 20.6	△ 11.1	△ 20.6	△ 15.9	6.3	33.3	6.3	△ 11.1	△ 12.7	△ 30.2	1.6	△ 17.5	33.3
R2.01~03	△ 25.4														

建設業	前年同期に比べて											前期比 残業時間	借入金 の 難易度	現在の 設 備	設備投資 実施割合	
	業況	売上額	収益	売上額	受注残	施行高	収益	請負価格	材料価格	在庫	資金繰り					
30.10~12	9.2	△ 6.1	△ 13.6	11.9	9.0	10.4	13.4	3.0	20.9	△ 4.5	△ 17.9	6.0	△ 37.3	△ 14.3	△ 12.1	25.4
31.01~03	△ 4.9	△ 13.4	△ 8.5	△ 12.2	△ 24.7	△ 7.3	△ 8.5	△ 1.2	29.3	△ 4.9	△ 11.0	△ 8.5	△ 43.9	5.1	△ 7.3	34.1
31.04~R1.06	3.8	7.3	9.8	6.1	3.7	7.3	1.2	△ 4.9	17.1	△ 1.2	△ 9.8	△ 4.9	△ 26.8	△ 2.7	△ 6.1	28.0
R1.07~09	△ 4.4	△ 2.2	△ 5.6	△ 1.1	△ 1.1	0.0	△ 7.8	△ 1.1	24.2	2.2	△ 12.1	△ 5.5	△ 28.9	△ 4.5	△ 8.9	26.4
R1.10~12	6.8	11.0	△ 5.5	△ 1.4	1.4	0.0	1.4	1.4	20.5	△ 4.1	△ 16.4	8.2	△ 40.8	△ 12.7	△ 11.0	26.0
R2.01~03	△ 9.6															

卸売業	前年同期に比べて											前期比 残業時間	借入金 の 難易度	現在の 設 備	設備投資 実施割合
	業況	売上額	収益	販売価格	売上額	収益	販売価格	仕入価格	在庫	資金繰り	人手				
30.10~12	3.2	△ 12.9	△ 19.4	22.6	41.9	32.3	35.5	38.7	22.6	△ 22.6	10.0	△ 3.2	△ 3.6	△ 6.5	29.0
31.01~03	△ 16.3	△ 16.7	△ 2.1	25.0	△ 16.3	△ 14.3	18.4	14.3	8.2	△ 8.2	0.0	△ 14.3	△ 8.3	△ 6.3	26.5
31.04~R1.06	△ 16.2	△ 8.1	△ 2.7	10.8	2.7	△ 10.8	5.4	13.5	10.8	△ 18.9	2.7	△ 8.1	△ 11.4	△ 8.1	35.1
R1.07~09	△ 34.9	△ 27.9	△ 18.6	△ 2.3	△ 16.3	△ 18.6	△ 4.7	7.0	4.7	△ 25.6	△ 7.0	△ 20.9	△ 19.5	△ 11.6	20.9
R1.10~12	△ 30.0	△ 30.0	△ 27.5	27.5	10.0	7.5	35.0	25.0	15.0	△ 27.5	△ 2.5	△ 32.5	△ 17.9	△ 10.3	32.5
R2.01~03	△ 30.0														

小売業	前年同期に比べて											前期比 残業時間	借入金 の 難易度	現在の 設 備	設備投資 実施割合
	業況	売上額	収益	販売価格	売上額	収益	販売価格	仕入価格	在庫	資金繰り	人手				
30.10~12	△ 25.6	△ 28.2	△ 23.1	5.1	△ 20.5	△ 25.6	17.9	25.6	△ 2.6	△ 26.3	△ 15.4	△ 21.1	△ 10.3	△ 7.7	23.1
31.01~03	△ 19.7	△ 14.8	△ 6.6	14.8	△ 13.1	△ 18.0	3.3	9.8	6.6	△ 26.2	△ 6.7	△ 16.7	△ 15.0	△ 11.7	21.3
31.04~R1.06	△ 32.7	△ 23.6	△ 27.3	14.5	△ 22.2	△ 29.6	9.3	18.5	△ 1.9	△ 24.1	△ 9.1	△ 18.2	△ 15.1	△ 10.9	16.4
R1.07~09	△ 42.9	△ 23.8	△ 25.4	3.2	△ 12.7	△ 14.3	1.6	9.5	1.6	△ 38.1	△ 6.3	△ 19.4	△ 22.6	△ 8.1	19.0
R1.10~12	△ 30.0	△ 12.0	△ 24.0	18.0	6.0	△ 8.0	16.0	30.0	4.0	△ 32.0	△ 2.0	△ 22.4	△ 26.0	△ 12.0	24.0
R2.01~03	△ 36.0														

サービス業	前年同期に比べて											前期比 残業時間	借入金 の 難易度	現在の 設 備	設備投資 実施割合
	業況	売上額	収益	売上額	収益	料金価格	材料価格	資金繰り	在庫	資金繰り	人手				
30.10~12	△ 12.1	△ 14.3	△ 20.9	9.9	1.1	5.5	15.6	△ 17.6	7.7	△ 33.0	△ 11.2	△ 29.7	26.4		
31.01~03	0.0	△ 7.8	△ 10.2	4.7	4.8	4.0	15.1	△ 7.9	0.0	△ 35.2	△ 14.4	△ 25.8	21.9		
31.04~R1.06	△ 25.0	△ 21.8	△ 21.0	△ 20.0	△ 24.2	△ 10.8	3.4	△ 25.8	△ 12.5	△ 21.8	△ 13.9	△ 23.3	24.2		
R1.07~09	△ 6.2	1.4	△ 6.2	7.5	1.4	0.0	7.5	△ 16.4	△ 1.4	△ 28.8	△ 10.8	△ 27.4	23.3		
R1.10~12	△ 16.0	△ 4.0	△ 9.7	3.2	0.8	16.0	24.8	△ 16.8	4.0	△ 40.8	△ 16.4	△ 20.2	29.6		
R2.01~03	△ 1.6														

不動産業	前年同期に比べて											前期比 残業時間	借入金 の 難易度
	業況	売上額	収益	売上額	収益	販売価格	仕入価格	在庫	資金繰り	人手			
30.10~12	12.5	12.5	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0	△ 12.5	0.0	0.0	△ 12.5	△ 33.3	0.0
31.01~03	10.0	△ 11.1	△ 11.1	10.0	0.0	10.0	11.1	△ 11.1	△ 10.0	0.0	△ 33.3	0.0	0.0
31.04~R1.06	12.5	12.5	12.5	12.5	12.5	12.5	0.0	12.5	0.0	12.5	△ 12.5	0.0	0.0
R1.07~09	△ 8.3	0.0	△ 16.7	△ 8.3	△ 25.0	△ 8.3	△ 8.3	△ 16.7	16.7	0.0	△ 27.3	30.0	
R1.10~12	△ 9.1	△ 10.0	△ 10.0	△ 18.2	△ 18.2	0.0	△ 9.1	△ 9.1	0.0	△ 9.1	△ 18.2	10.0	
R2.01~03	18.2												

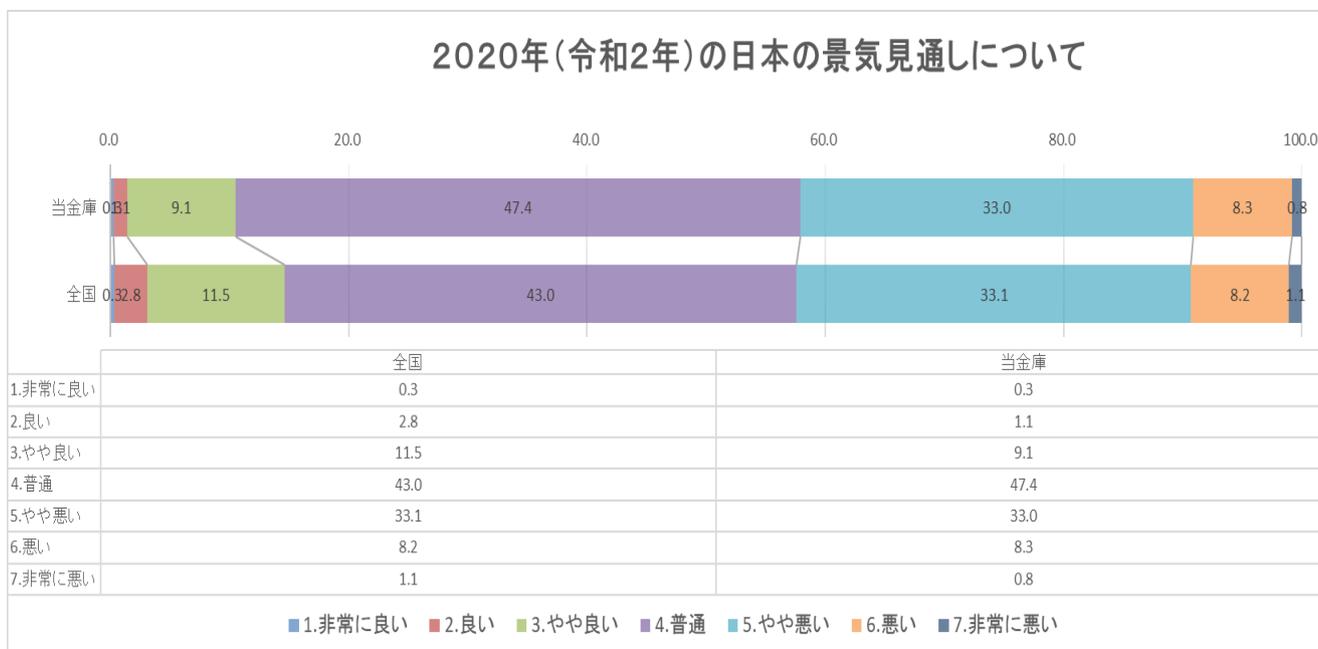
全業種	前年同期に比べて											前期比 残業時間	借入金 の 難易度
	業況	売上額	収益	売上額	収益	資金繰り	人手						
30.10~12	△ 3.4	△ 10.7	△ 14.4	13.4	6.2	△ 16.8	6.9	△ 29.9	△ 8.2				
31.01~03	△ 5.0	△ 8.2	△ 6.7	△ 7.9	△ 9.2	△ 10.9	△ 1.7	△ 32.9	△ 5.3				
31.04~R1.06	△ 13.2	△ 10.8	△ 10.6	△ 7.9	△ 13.7	△ 16.6	△ 7.1	△ 21.9	△ 8.6				
R1.07~09	△ 15.3	△ 7.8	△ 11.2	△ 3.7	△ 8.7	△ 18.0	△ 3.9	△ 27.5	△ 8.5				
R1.10~12	△ 14.9	△ 7.8	△ 14.7	0.3	△ 3.0	△ 18.5	0.0	△ 34.8	△ 13.2				
R2.01~03	△ 14.6												

全国	前年同期に比べて				
	業況	売上額	収益	資金繰り	人手
30.10~12	4.0	3.6	△ 1.1	△ 5.0	△ 29.9
31.01~03	△ 3.7	△ 1.6	△ 5.5	△ 6.4	△ 28.9
31.04~R1.06	△ 3.3	△ 1.7	△ 4.7	△ 4.9	△ 27.4
R1.07~09	△ 4.7	△ 3.5	△ 6.1	△ 6.7	△ 27.0
R1.10~12	△ 7.8	△ 9.4	△ 11.9	△ 7.8	△ 27.4
R2.01~03	△ 12.3				

《特別調査》2020年（令和2年）の経営見通し

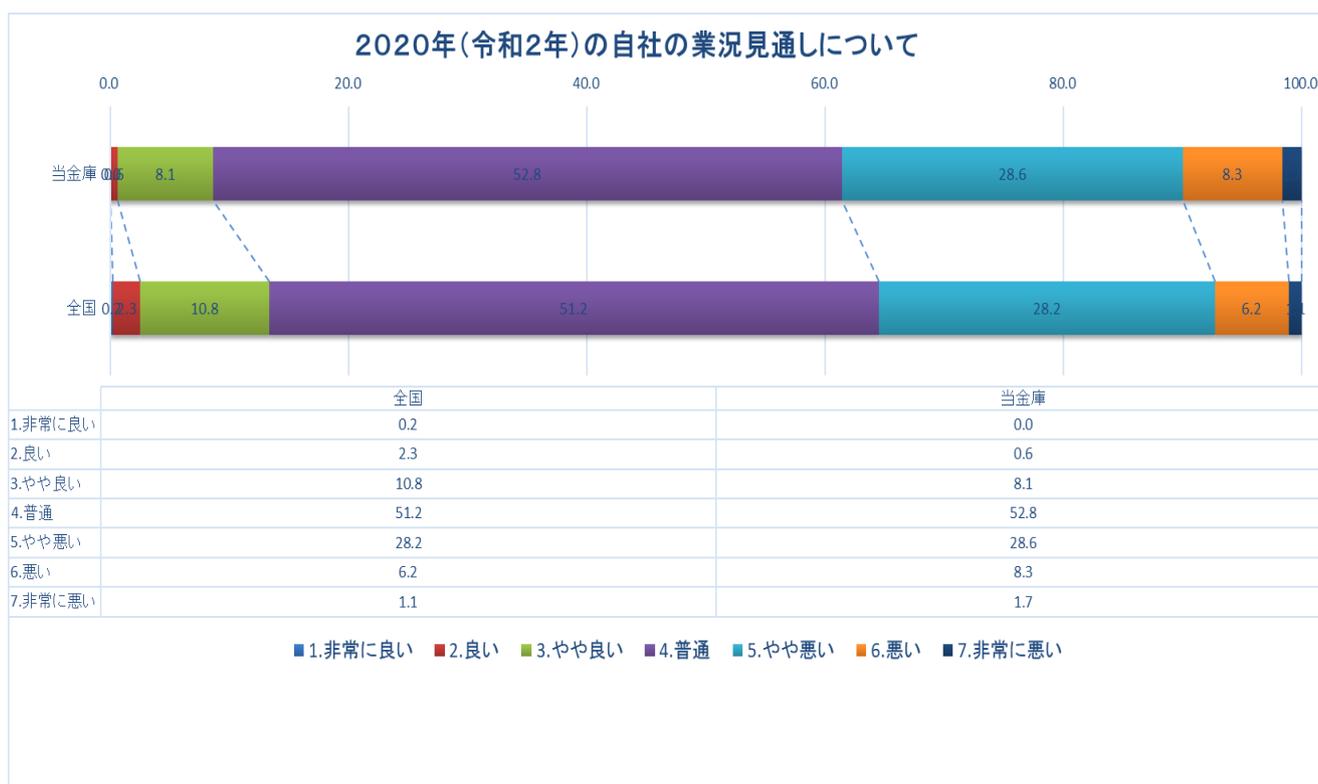
**【問1】2020年（令和2年）の日本の景気見通しについて**

「非常に良い」「良い」「やや良い」と回答した割合が全国 14.6%に対して当金庫内 10.5%。全国と比較して、当金庫内は慎重な見通しの傾向がある。



**【問2】2020年（令和2年）の自社の業況見通しについて**

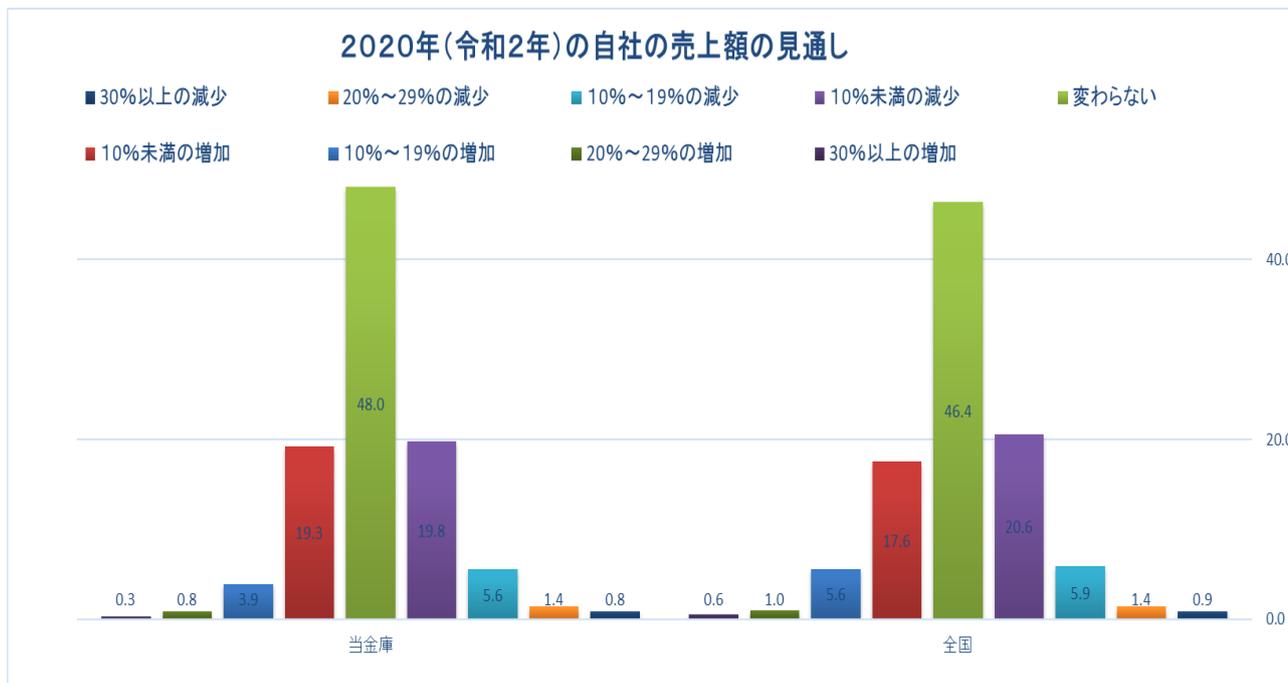
「非常に良い」「良い」「やや良い」と回答した割合が全国 13.3%に対して当金庫内 8.7%。「自社の業況見通し」についても「日本の景気見通し」と同様に当金庫内は慎重な見通しの傾向がある。



### 【問3】2020年（令和2年）の自社の売上額の見通し

全国では「増加する」と回答した割合が24.8%、「減少する」と回答した割合が28.8%と「減少する」のほうが上回った。当金庫内でも「増加する」と回答した割合が24.3%、「減少する」と回答した割合が27.6%と全国と同様の傾向であった。

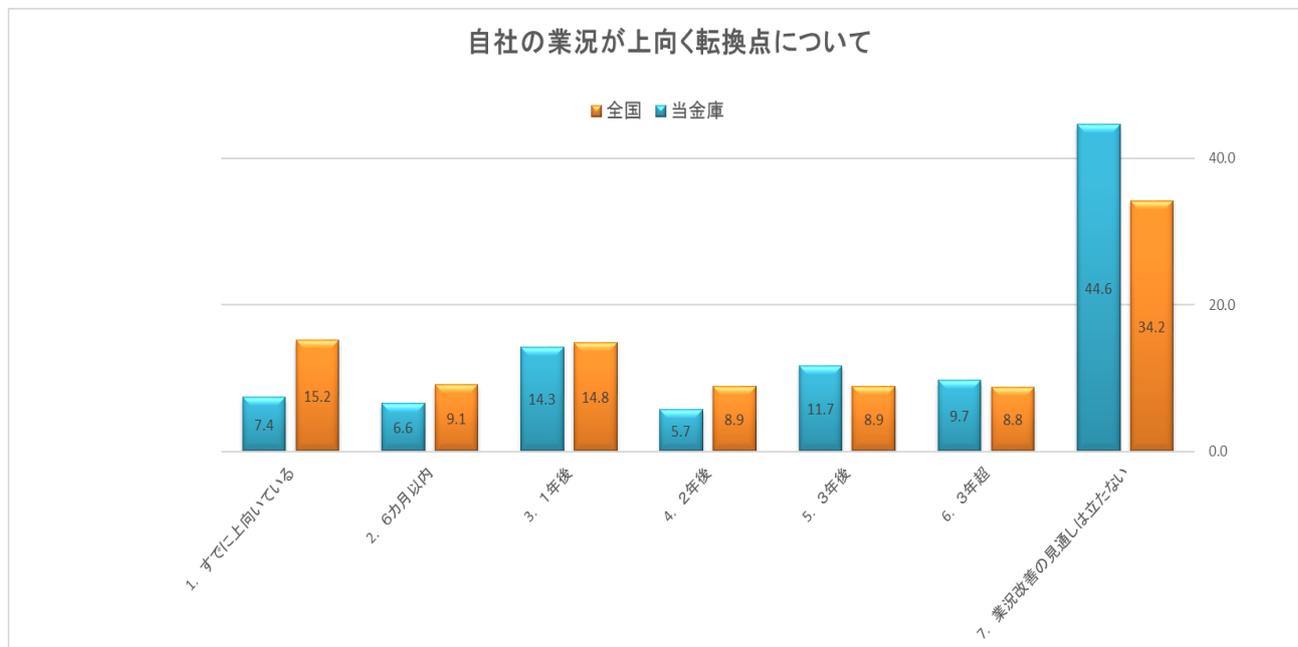
また、全国・当金庫内ともに「変わらない」と回答する先が半数近くを占める結果となった。



	当金庫	全国
30%以上の増加	0.3	0.6
20%～29%の増加	0.8	1.0
10%～19%の増加	3.9	5.6
10%未満の増加	19.3	17.6
変わらない	48.0	46.4
10%未満の減少	19.8	20.6
10%～19%の減少	5.6	5.9
20%～29%の減少	1.4	1.4
30%以上の減少	0.8	0.9

## 【問4】自社の業況が上向き転換点について

「すでに上向いている」と回答した割合は、全国 15.2%に対して当金庫内 7.4%であった。また、「業況改善の見通しは立たない」と回答した割合は、全国 34.2%に対して当金庫内は 10.4%上回る 44.6%であった。当金庫内では、転換点すら見通しが立たないという厳しい回答結果であった。

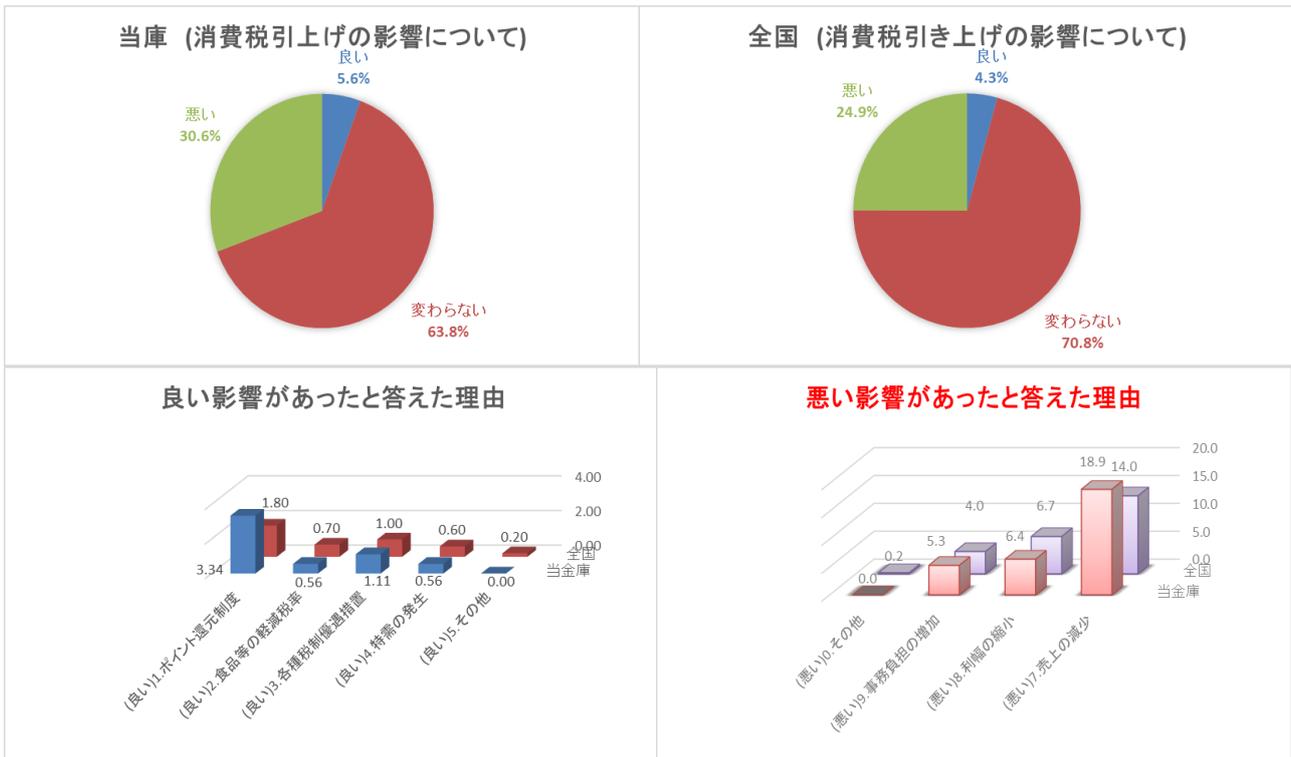


	1. すでに上向いている	2. 6カ月以内	3. 1年後	4. 2年後	5. 3年後	6. 3年超	7. 業況改善の見通しは立たない
当金庫	7.4	6.6	14.3	5.7	11.7	9.7	44.6
全国	15.2	9.1	14.8	8.9	8.9	8.8	34.2

## 【問5】消費税率引き上げの影響について

全国では「良い影響があった」と回答した割合が4.3%、「悪い影響があった」と回答した割合が24.9%と「悪い影響があった」のほうが上回った。当金庫内でも「良い影響があった」と回答した割合が5.6%、「悪い影響があった」と回答した割合が30.6%と全国と同様の傾向であった。良い影響があった理由のうち「ポイント還元制度」が最も多い理由であった。悪い影響があった理由で一番多かったのは「売上の減少」であった。

また、「変わらない」と回答した割合は、全国70.7%、当金庫内が63.8%といずれも半数以上を占める結果となった。



以上

参考文献 信金中央金庫 地域・中小企業研究所「第178回全国中小企業景気動向調査」